

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名

こもれび ^{こもれび})

事業所番号	0691200042		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13-2		
自己評価作成日	令和4年11月16日	開設年月日	平成25年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で様々な事が制約されている中でも日々のレクリエーションや催し物だけではなく普段の生活の中に張り合いが持てるような支援を行う事で「ホームでの豊かな生活」に繋がるよう、また利用者の方々が楽しみや役割を持ちながら活き活きと生活できるような支援を心掛けています。職員一人ひとりが自分たちに来る事は何かと日々考えながら利用者と共に生活する意識を持ちケアにあたっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和4年12月9日	評価結果決定日	令和4年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、コロナ禍の中で、「住み慣れた所で、心穏やかに生活できる」、「その人が持っている力が存分に発揮される」という理念を実現できるように、工夫をしながら努力している。特に、生活歴などを基に、「得意なことや出来る事を活かし、役割として活動する中で、達成感・喜び・満足感を得られるように」、話し合い、アイデアを出し合いながら支援している。スイカ割りや室内ゲーム等を企画し、ストレスを貯めないように配慮するとともに、外出が制限される中でも、テラス・東屋・花壇を活用したお茶・軽作業や散歩などで外気に触れ、気分転換を図っている。また、祭りの太鼓の来訪をお願いしたり、季節毎に、少人数でのドライブ・紅葉狩りなども支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で事業所理念の唱和を行っている。理念の再認識をしながら実践に繋げている。	事業所理念を、毎日の朝礼で唱和し、「住み慣れた所で、心穏やかに生活できる」「その人が持っている力が存分に発揮される」ように、ユニットごとの目標も立て、工夫をしながら努力している。ている。特に、力を発揮し、役割を担い、達成感・満足が得られることなどを意識して支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で「地域との交流」が難しい状況ではあるが、町内会に属しながら地域と交流が保てるように努めている。地域の敬老会では入居者へのお祝いを頂いたり、地域のお祭りでは「臥龍太鼓」の屋台にホームを回ってもらい披露してもらった。	コロナ以前から減ってきているが、偶には地域の美容室に出かけたり、買い物や外食などに出かけたりしている。また、中学生の職業体験を受け入れたり、祭りの太鼓に来て頂いたり、野菜のお裾分けを頂いたり、地域との交流が途切れないように、「住み慣れた所で生活できる」ように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法などを地域の方々に発信する機会はコロナ禍で直接的な交流が難しい為減ってきている。広報などの文書で発信する等工夫する取り組みが必要である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に開催については、「コロナ禍」の為開催出来ておらず、書面での報告のみとなっている。	従前のように、2か月に1回、町内会長や有識者や家族の参加を得て、会議方式での開催は控えている。会議資料を、市職員に配布して意見を伺っている。今後の感染状況を踏まえながら、早期に会議方式で開催するように準備を進めていく意向である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と日頃から連絡を取る機会は以前より減ってきている。事業所の実情やケアサービスの取組みを伝える機会も「運営推進会議 書面報告」の機会に留まっているため以前のように積極的に情報を伝える機会も設ける必要がある。	コロナ対応に追われ、利用者ケアに関するコミュニケーションは減少しているが、運営推進会議資料を持参した際や、利用者に係る個別相談で訪問する際に情報を交換しながら、連携関係が切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>「身体拘束をしないケアの実践」について、全体会議や職員同士で協議している。職員一人ひとりが「身体拘束を行わないケア」や鍵をかけない工夫を考えながら環境づくりに努めている。</p>	<p>身体拘束適正化委員会を定期的開催するとともに、折りに触れ全体会議で、「一人ひとりの力の継続・充実」や鍵などを掛けない様々な工夫について話し合っている。オンライン研修会に参加したり、ユーチューブ視聴などで能力向上を図っている。前回の目標達成計画の、適正化委員会を運営推進会議においてを実施することについては引き続きの課題としている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃のケアや関わりが虐待にあたらないか適切な対応なのかを常日頃考えながらケアの実践を行っている。全体会議でも日頃のケアが虐待にあたらないかを考える機会設けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の個々に置かれている立場を把握し、考えながら定期的に日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を設けている。必要な方であれば関係者と話合いながら活用出来るように努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結については、主に管理者・役職者が行っている。家族や関係者からの不安点や疑問等を尋ね十分に説明を行う事で理解と納得を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族から頂戴した意見や要望については、協議・検討を行い運営に反映させている。利用者やその家族・運営推進会議においても報告している。</p>	<p>コロナ禍の中で面会は控えているが、病院付き添いの引継ぎの際や、毎月の広報送付した際の意見・要望を大切に纏め、対応策を講じている。管理者は、コロナの推移を見ながら、従前実施していた個人毎の「お便り」を復活させる意向である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に役職者が職員の意見や提案を聞きながら事業運営に反映させている。代表者、エリアマネージャーが職員個々と面談する機会もありその意見が運営に反映させられるよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者・役職者からの職員評価及び個々の面談等を通じて各職員の実績勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者・職員に対して法人内外の研修や資格取得を行えるように働きかけている。職員へ「初任者研修」「実務者研修」受講を積極的に促している。	人事評価資料を基に、一人ひとりの資質向上を図っている。管理者や職員には、法人内外の研修に参加すること、職員には、行政・団体に加え、民間研修への参加も推奨している。また、内部においても、会議を活用しながら、時宜の研修を行い、伝達研修も活用して資質向上を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会・グループホーム協会への参加、オンラインでの研修会やブロック会等を通じて横の繋がりを構築する事でサービスの質の向上がなされるように努めている。	県グループホーム連絡協議会・グループホーム協会に加盟し会議や研修を通してネットワークを築いている。現在はオンライン研修に参加し、交流関係が途切れないように努めている。法人内他事業所との実践交流も活用している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始段階で、本人が困っている事や不安な事を話し易い雰囲気づくりを行っている。本人の話に耳を傾け安心が確保出来るための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事や不安に思う事、要望に対して十分にヒヤリングを行い、関係性づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が不安に感じている事、行って欲しい事に耳を傾け「その時」必要としている支援を見極め、介護サービス以外での他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で日常的な家事を共同で行う事で共に暮らしを支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や広報紙での近況報告を行っている。本人と電話で話をしたり手紙のやり取り、受診の対応など家族に担って頂けるところはになって頂き共に本人を支えていく関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で人と人の直接的な訪問などは難しいが、馴染みの場所への訪問や手紙や電話でのやり取りは継続出来るようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握して、トラブルが起きないように席の配置や職員が関わり合いを持ち孤立しないように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても必要に応じ、相談や支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の思いや以降の把握に努めている。表出が困難な方については本人のこれまでの生活歴や性格等を考慮しながら思いをくみ取れるように検討している。	できるだけ「その人らしく生活」してもらうため、日常会話の中で、「可能な限り多く」聴きとるように努めている。把握の難しい利用者については、生活歴や性格、家族聴きとりに基に職員間で話し合い、それを共有しながら統一的に支援できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーより得た情報を共有している。事前に得た情報を基に本人・家族との会話などから随時情報の取得・把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしや習慣、その日ごとの違いに着目しながら心身の状態、有する力量等の現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントを定期的に行い介護職員、計画作成担当者、本人、家族、専門職も含め協議しその内容をもとに現状に沿った介護計画書を作成している。	個人毎に詳しく記録されたものを基に、月に1回モニタリングを行っている。それを基に、変化がなければ、毎年計画の見直しを実施している。アセスメントの際は、理念を踏まえ、特に、「得意なことや出来ることを活かし、役割として活動する中で、達成感・喜び・満足感を得られる」ような計画となることを意識している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事やいつもと違う事等は個人記録に記入し情報共有の実践に繋げている。それを基にモニタリングし介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前から減ってきているが、地域の美容室に出かけたり、買い物や外食などに出かけたりしている。近所の方との交流(野菜のお裾分けを頂いたり)も回り地域の一人として安心して豊かな生活を楽しむ事が出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期往診・受診の時情報シートを使用し本人の状況伝え関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族が希望する医師を、原則的には家族が、必要な場合は職員が付き添って受診している。往診してくれる医師もあり、多くの利用者が「かかりつけ医」としている。受診する場合は、「受診情報シート」を持参し、医師の判断は丁寧に記録され、連絡され、関係者の理解に差異が生じないようにしている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来所する「訪問看護師」へ利用者の健康面の不安や特変事項等を伝え相談している。看護師の専門職の立場からアドバイスを貰う事で適切な受診・看護が受けられている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、適切な治療が受けられるよう速やかに情報提供し、入院中は病院関係者と情報交換や相談に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期について事業所で「出来る事・出来ない事」を説明し本人・家族の意向を尊重して対応している。入居後、意向の再確認をどのタイミングでしていくか、主治医・施設での方針に相違・ズレが生じないように確認を行いながら進めている。	入居時に、重度化対応指針・看取り指針と事業所の「出来る事・出来ないこと」を詳しく説明し支援している。変化があった場合は、本人・家族・医師と適時に相談しながら、家族の希望を支援している。最近は見取の事例はない。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在、緊急時マニュアル見直し段階で早急に完成し定期的な訓練を行っていく必要がある。全ての職員が応急手当や初期対応が出来るように定期的な訓練を積極的に行っていく必要がある。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「火災想定訓練」は年2回行っている。その他、自然災害の有事の際の実施訓練に課題が残る。早急にマニュアルの見直しと地域との協力体制作りも行っていく必要がある。	火災想定訓練は年2回行っている。今年度は消防署の参加は得ていない。水害については、市の指導を受けながら、コロナ禍後の対応方針を作成中である。食糧や水等の備蓄については、法人の協力で体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、誇りプライバシーに配慮した言葉かけ対応を心掛け対応している。その人の「思い」や「らしさ」が損なわれないような配慮を行っている。	理念の「自尊心を持って自立した生活を送れる」を踏まえ、自分らしく生活し、役割を果たす達成感なども得られるように支援している。全体会議において、特に不適切な言葉掛けなどを話し合い、また、研修資料の配布で認識を高め合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から本人の思いや希望が表出させるように努め、自己決定ができるような働きかけや対応を行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペース・スタイルを大切にしながら、一人ひとりの希望に合わせた過ごし方が出来るように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室などで定期的にカットを行っている。希望されるかには毛染めの支援を行っている。洋服の購入など家族と共に買い物に出かけたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しむものと同時に、職員と利用者が共同で役割分担をもって準備や盛り付け、後片付け等を行っている。	ごはん・みそ汁は事業所キッチンで調理し、副食は配食サービスを利用している。配膳・下膳、食器拭きなどは共同作業で行い、温かい、季節的な、地域的な香りのする食事を楽しんでいる。また、月2回の手作り昼食の日は、利用者と職員が協力し合って調理を行っている。ひな祭りなど行事食を楽しんだり、プランター野菜を使用したり、干柿作りで季節感を味わったり、作って、食べて、楽しんでいる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の能力に応じた食事形態(常食・刻み食・ミキサー食・トロミ)や提供量・好みの飲み物を考慮し提供する。食器やスプーンや箸などその人その人の習慣や状態に合わせたものを使用して頂けるような配慮を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し口腔状態・個々の能力に合わせた支援を行っている。義歯の方は夜間、洗浄剤のつけ置きを行う等の対応を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握する為、必要な方排泄表を用いて排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレで排泄が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンや特徴を話し合ったりしながら、トイレで一人で自立的に排泄する支援を行っている。特に、一人ひとりの適切な声かけ誘導により、現在は、概ねそれが可能になっている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々、水の入ったペットボトルを居室に準備したり、水分摂取が適切になるような促しや乳製品の提供をしている。また、個々に合わせた体操も行い予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調や気分に合わせて無理強いせず、安全に入浴を楽しんで頂けるよう支援してる。	利用者の体調や気分を考えながら、一人で安全にゆっくり楽しめるように支援している。機械浴とひのき風呂があり、シャワー浴も含め、週に2回は入浴を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣・状態・状況に合わせてながら、日中は活動的に過ごし夜間は眠れるようにリズムを整えられるような支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の受診記録・薬情報書にて把握に努めている。内服の際は内服票表を用いて確認しながら内服にあたっている。内服後の状態も観察し異常が見られた際は主治医へ報告している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や情報の元、得意なことや出来る事を活かし、役割として活動する中で、達成感・喜び・満足感を得られるように支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも、テラスや東屋・敷地内の花壇の草取りなど少しでも外気に触れ気分転換が出来るように工夫している。少人数でのドライブ・紅葉狩り・美容室へ行ったり・外食等の外出支援を行っている。	コロナ禍で外出が制限される中でも、外出の楽しみを失わないよう、工夫しながら対応している。テラス・東屋・花壇を活用したお茶・軽作業、散歩などで外気に触れ、気分転換を図っている。近隣の理美容室や買物に出かけたりも支援している。また、季節毎に、少人数でのドライブによる紅葉狩りなども支援し、精神的な刺激を感じていただくよう取り組んでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で管理している。希望される方は、家族の了解を得て小銭を所持し敷地内の自販機での「ジュース」の購入や、外食は本人と共に支払いの支援を行っている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との電話の希望があった際は電話をかかっている。携帯電話を所持しお話されている方もいる。本人と家族の関係性を考慮し、手紙のやり取りの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは入居者が思い思いに寛げる空間となっている。季節感を味わえるよう季節に応じて様々な飾りつけを行い、利用者の作品も掲示し明るく温かい雰囲気となっている。温度・湿度・換気を行い快適に過ごせるよう取り組んでいる。	居間や廊下には楽しかった行事の写真や利用者の作品などが飾られている。季節感を感じさせる飾り物もあり、家庭的な、季節感のある空間となっている。温度・湿度管理・換気も適時にチェックして管理し、清掃も利用者も協力して行われ、居心地よく暮らせるように工夫している		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを設置。各々が落ち着く場所で作業レクリエーションをしたり、テレビや新聞を観たり外の景色を眺めたりしてゆったりと過ごしている。状況に応じて座って頂く場所を誘導し皆が落ち着いて過ごせるように工夫している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物や世話をしてきた観葉植物・家具などを持参して頂き安心して過ごせる居室の環境づくりをしている。入居後もその時の状況に合わせて居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人の馴染みの家具や植物を持ってきたり、家族との写真を飾ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。テレビも楽しむことができる。温度湿度管理を行い、換気や清掃にも配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安心・安全を心掛け、日時や場所が分かり易いよう時計・カレンダー・場所の貼り紙や補助具を工夫するなど出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。			